

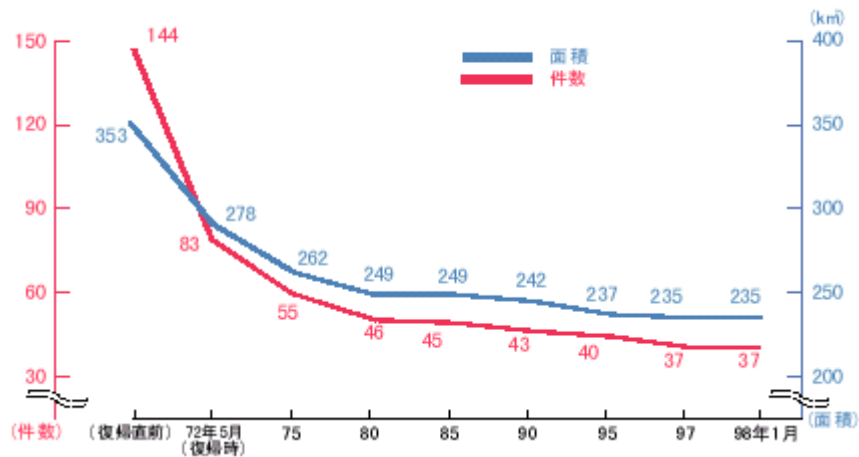
## 第5節 沖縄に所在する在日米軍施設・区域に係る諸施策

### 1 在日米軍施設・区域とその整理・統合・縮小への取組

米軍が沖縄に駐留する理由には、歴史的経緯により、駐留の基盤となる基地、練度や即応性の維持・向上に必要な演習場などが県内に現に存在していること、また、米本土などよりも東アジアの各地域に近く、緊急な展開を要する場合に迅速な対応が可能であるなどの地理上の利点を有することなどが考えられる。

沖縄の復帰後、日米両国は地元の要望の強い事案を中心に、米軍施設・区域の整理・統合・縮小のための努力を継続的に行ってきた（佐藤・ニクソン共同発表、いわゆる沖縄3事案への取組など）。

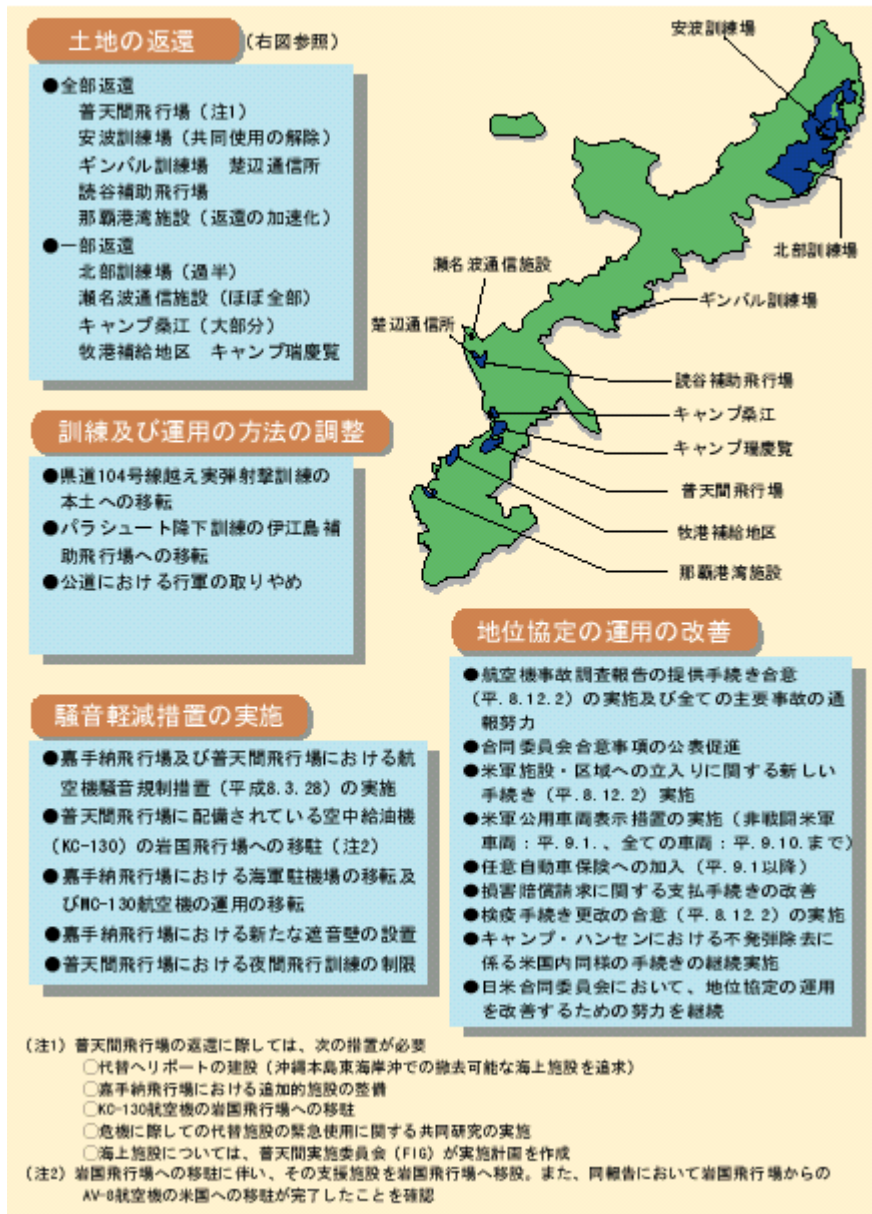
第6-7図 沖縄に所在する在日米軍施設・区域件数及び面積の推移



## 2 在日米軍施設・区域に係る問題解決に向けての新たな取組

SACO設置以後、沖縄の米軍施設・区域に係る問題の解決のため、さまざまな取組が実施されている（沖縄米軍基地問題協議会、沖縄米軍基地所在市町村に関する懇談会などにおける取組など）。SACO最終報告とその実施状況

第6-8図 SACO最終報告の概要



- **普天間飛行場の返還と代替ヘリポート建設**  
政府としては、海上ヘリポートは普天間飛行場の返還を実現する方法として最善のものと考えており、県を始めとする地元の理解が得られるよう粘り強く取り組むこととしている。
- **安波訓練場の返還**  
本年4月に日米合同委員会において返還につき合意した。
- **県道104号線越え実弾射撃訓練の本土への移転**  
本土5か所の演習場の地元から分散・実施についての理解が得られ、逐次訓練を開始している。
- **嘉手納飛行場における新たな遮音壁の建設**  
本年度末の完成に向け、建設工事を行っている。